

平成 24 年度第 2 回小牧市環境審議会 議事要旨

日 時	平成 24 年 10 月 15 日（月）午前 10 時～正午
場 所	小牧市役所本庁舎 3 階 3 0 1 会議室
出 席 者	【委員】 ◎石川徳久（中部大学工学部教授） 石井紘一（公募委員） 大橋昌己（こまき環境 ISO ネットワーク） 岡田憲久（名古屋造形大学大学院・造形学部教授） 末松雅彦（こまき環境市民会議副会長） 谷口文男（小牧商工会議所環境対策委員会副委員長） 馬場容子（公募委員） 本庄 肇（小牧市小中学校長会） 【事務局】 柴田環境交通部長 廣畑環境交通部次長 伊藤環境対策課長 仲根廃棄物対策課長 野口リサイクルプラザ所長 小林交通防犯課長 丹羽環境対策課長補佐 水野政策推進係長 朝日主事 中外テクノス（株）加藤氏、荻原氏
欠 席 者	2 名（稲垣孝子委員、鳥居郁夫委員）
傍 聴 者	0 名
配布資料	資料 1 アンケート調査結果の概要 資料 1－1 市民意識調査結果 資料 1－2 事業者意識調査結果 資料 2 環境基本計画・地球温暖化対策地域推進計画の進捗状況等調査結果 資料 3 第 2 次小牧市環境基本計画 骨子（案） 資料 4 平成 24 年度小牧市環境年次報告書（案）

主な内容

1 あいさつ（石川会長）

- ・エネルギー政策など国の対応が流動的ではあるが、小牧は小牧の計画を策定していきたいのでしっかりとした議論をお願いしたい。

2 議題

（１）市民・事業者アンケートの結果について

- ・事務局より、資料１、１－１、１－２を用いて説明。
- ・意見等は以下のとおり。

（会 長）この会議資料は、委員へいつ送ったか。

（事務局）１０月１０日に配布した。

（会 長）資料を細かく読む時間は無かったかもしれない。基本的に市民の重要度と満足度では、満足度が低い結果となっている。自転車の利用については、市民の自転車の利用が増加すると、道路整備が課題となる。今のままでは、交通事故の危険があり、自転車の推進にも限界があるのではないか。

（委 員）今年８月初めと９月にこまき環境市民会議でアンケート調査を環境映画を観に来た人を対象に行った。結果として、「市民がやらなければいけないことを明確にしてほしい」が４１％、「次の世代に対して環境教育をしてほしい」が約５０％、「重要な暮らしの環境情報を提供してほしい」が３４．６％となった。今回のアンケート調査と大きく変わらない結果になっている。市民がやるべきことを市が具体的に提示しないと行政にもたれかかってしまう。例えば、歩道の植え込みの雑草除去やごみ拾いは、市民は市がやることだと思っているが、市民がやらなければいけないことでもある。市民が自分たちでやるということを自覚してもらうために、市は啓発していかなくてはいけない。

（会 長）市が何もかもやる時代は終わった。元気なお年寄りにボランティア活動をしてもらうようにすれば、経費も削減できるのではないか。

（委 員）アダプトプログラムの参加についてですが、ボランティア数が増えないのが問題。高齢化も進んでいる。ボランティアをいかに増やし、地域を盛り上げるかが課題である。１区１団体のボランティアを作るのが理想である。今まで以上に、ボランティア団体を育てるしくみをつくってほしい。

（２）環境基本計画・地球温暖化対策地域推進計画の進捗状況等調査結果について

- ・事務局より、資料２を用いて説明。
- ・意見等は以下のとおり。

（委 員）資料２は読みにくく、わかりづらい。重点施策に対して、どんな課題があり、対策をしているのかが分からない。一つの資料でもっと見やすくするべきである。

- (事務局) 各重点対策の、課題と対策は、年次報告書としてまとめている。今後の評価の仕方も、骨子案として記載していく。
- (委員) 資料がありすぎて、比較検討しづらい。課題と結果が分かりづらい。
- (委員) 重点施策の順位の入れ替えや、集約したほうが良い。77もあるが、整理したら半分以上に減らすことができるのではないかと。減ることにより、各施策に集中して取り組むようにすれば良い。例えば、こどもエコクラブなど、細かいものは集約できる。数値の把握だけでなく、十分活用されているかの検討が大切である。児（ちご）の森の活用推進の施策があるが、昨日子供たちを連れて行ったが、今までにきたことのある子供は誰もいなかった。整備すれば、自然体験ができる場所だと思う。市の横の連携をとって活用できる場になるようにしてほしい。
- (委員) 農地については、都市計画マスタープランで扱いきれなかった部分も施策として扱えるのか。
- (事務局) 総合計画の下に並列して、環境基本計画、マスタープランなどがある。総合計画のもとでそれぞれの施策がある。この計画では、農業政策まではふれない。
- (委員) 5ページの公害の部分で、BODが高いと書いてあるが、数字を入れて欲しい。またその対策はしているのか。
- (事務局) 年次報告書に詳しく載せてある。対策としては、最も高い小向橋は、春日井市の工場からの排水の影響があるので、県、春日井市と連携を取り対策を進めている。
- (委員) 資料2の表にも、数値や対策を入れてほしい。
- (会長) 年次報告書と比べ易くするために、年次報告書のどこの部分が該当するか、ページ等を入れたほうが良い。

(3) 第二次計画の骨子案について

- ・事務局より、資料3を用いて説明。
- ・意見等は以下のとおり。

- (委員) 骨子案のP4、5の部分の素案として記載したものについて、次回、意見をすればよいのか。アンケート結果はまとめているが、施策として反映する場合、現段階で小牧の特性をどこに感じているか教えて欲しい。
- (事務局) アンケートとして、満足度が少なく重要度が高い、「ごみがなく清潔」や「親水性の向上」「温暖化対策」「情報提供」等が考えられる。
- (委員) それは一般的なものだと思うが、小牧独自のものが知りたい。
- (委員) 南部地域は人口が増えて、文化や考え方が色々な人が集っている。小牧市は、どういうことに取り組んでいくか明確な方向性を提示していかないといけないと思う。
- (会長) 市全体がどうあるべきかは、総合計画の方向性をみながら、環境基本計画

に取り入れていかななくてはならない。

(委 員) 目的と目標をはっきり分けていただきたい。数値化できるものは目標となる。CO2 9.9%削減というのは、総量のことか。ベースをはっきりさせて欲しい。発展しなければならない事業者としては、原単位での目標設定を検討して欲しい。

(事務局) 9.9%削減というのは総量のことである。愛知県の統計値などを使って按分したものであるため、小牧の特性が反映されていない。今回の改訂計画では、指標を中部電力や東邦ガスからのエネルギー消費量としたい。

(委 員) 小牧だけで、推計できる指標を見つけて欲しい。

(委 員) 循環型社会の構築の 3R を 4R にできないか。リフューズ（ごみの回避）を入れたほうが良いのではないか。P5 の市の施策の書き方では、・・・に努めます。と書く場合は、どのように努めるのか明確に記載してほしい。

(委 員) 人づくりの部分。計画目標年は、今の 15 才の子供が成人となっており、担い手になっている。学校では、環境教育は、総合学習の時間で行っており、子供たちの意識は高まっている。知識を、実践できるかどうかにかかっている。最近では、地域に根ざした環境教育をしている。地域の人と共同で、長期にわたり行動できる場が必要である。草取りや挨拶などと同じように、地域のボランティア活動の中に子供が入っていけるような、団体を増やして欲しい。

(委 員) 区域施策編とは、どういうものですか。

(事務局) 温暖化対策実行計画には、事務事業編と区域施策編があり、事務事業編は、自治体自らを対象にした計画です。区域施策編は、市全体の温暖化対策の実行計画であり、市民・事業者・市すべてが対象となっている計画です。

(委 員) アダプトプログラム団体の制度を見直し、資金の投入を検討して欲しい。おうちまわりをきれいにしましょうキャンペーンでは、87%の市民が、自分たちの家や、事業所の回りをきれいにしたら、小牧市もきれいになると考えている。P5 の市民の施策の書き方については、市は・・・に努めますだけでなく、市民は・・・してくださいとはっきり書いたほうが良い

(4) 平成 24 年度小牧市環境年次報告書（案）について

- ・事務局より、資料 4 を用いて説明。
- ・意見等なく了承された。

以上